

「第3期おかやま創生総合戦略（素案）」及び「岡山県人口ビジョン（令和7年3月改訂版）（素案）」に対する県民意見等の募集結果について

令和6年11月15日から令和6年12月14日までの間、「第3期おかやま創生総合戦略（素案）」及び「岡山県人口ビジョン（令和7年3月改訂版）（素案）」について、おかやま県民提案制度（パブリック・コメント）により、ご意見を募集したところ、次の20件が寄せられました。

これらのご意見等に対する県の考え方を掲載しておりますのでご覧ください。貴重なご意見ありがとうございました。

<寄せられたご意見等の概要と県の考え方>

1 第3期おかやま創生総合戦略（素案）

(1) 戦略素案全般

番号	ご意見等の概要	県の考え方
1	<p>若者、特に女性の流出を止めたいのであれば、地元では、価値観や趣味が合う男性と出会う機会がほとんどないことや、若い世代が楽しめるイベントや文化的な活動がほとんどない現実を理解するべきだ。</p> <p>県は魅力的な男性と出会える環境や、若者向けのイベント、文化的な活動を充実させることが不可欠だ。また、都市での生活を通じて得た趣味やキャリアを地元で活かせるような仕組みを整えることで、帰郷の選択肢が初めて現実味を帯びるのではないか。</p>	<p>若者や女性の県外流出には大きな危機感を持っており、若い世代に選ばれる地域となるために、さまざまな観点から取り組む必要があります。</p> <p>本戦略では、基本目標1「①結婚の希望をかなえる環境づくり」に男女の出会いの機会の提供、基本目標3「③多様な人材の活躍推進」に女性の活躍推進、基本目標4「②地域社会の活性化」に文化とスポーツの力を活用した地域の活性化を掲げており、これらの相乗効果を高め、魅力ある岡山県を実現できるよう、ご意見の観点も踏まえ、施策を実行してまいります。</p>

(2) 「第1 計画の趣旨」関係

番号	ご意見等の概要	県の考え方
2	「以下、「〇〇という。」」は、「以下「〇〇という。」」の方がよいのではないか。	「以下「〇〇という。」」とします。
3	この戦略は、第4次晴れの国おかやま生き活きプランの基本的方向性等を踏まえたのではなく、組み替えたただけだ。第4次晴れの国おかやま生き活きプランに、統合すべきだ。	晴れの国おかやま生き活きプランは県の最上位の総合計画であるのに対し、おかやま創生総合戦略は、まち・ひと・しごと創生法に基づき、人口減少問題に焦点を当てて策定する個別計画であることから、別のものとしているところです。

(3) 「第4 おかやま創生を加速化・深化させるための対策」関係

番号	ご意見等の概要	県の考え方
4	「大学短大数※〔3位〕」について、全国的に短大は廃止の方向だ。人口に対する大学・短大の学生数の方が好ましいのではないか。	人口10万人当たりの大学・短大数が上位であることは、本県の教育環境が充実していることを表すポジティブデータと考えています。記載にあたっては、人口10万人当たりであることを追記します。
「基本目標1 結婚・子育ての希望をかなえる」関係		
5	【数値目標】 出生数の数値目標12, 238人とあるが、他の目標値を眺めれば、12, 300人程度がよいのではないか。	この目標値については、過去の実績その他のデータを基に算出した数値としています。
6	【1-② ■妊娠・出産をサポートする体制の整備】 「母子支援」について、「親子の支援」の方がよいのではないか。母子手帳と親子手帳が2024年の時点でどう評価され	母子のみならず、父親も含めた親子の支援は重要であると考えていますが、母子保健法において、母性並びに乳幼児の健康の保持増

	<p>るのかという視点の議論が望まれる。</p>	<p>進を図るために講じるべき措置が規定されているところです。ご指摘の箇所は、同法に基づく、母性と乳幼児の健康を守る観点での体制整備について記載しているものです。</p>
7	<p>【1-② ■妊娠や出産に関する正しい知識の普及と相談体制の充実】</p> <p>妊孕性について、用語の説明、ルビは必要ではないか。</p>	<p>ルビと説明を追加し「妊孕性（^{にんようせい}妊娠のしやすさ）」とします。</p>
<p>「基本目標2 つながり築き、人を呼び込む郷土岡山をつくる」関係</p>		
8	<p>【2-② 若者の還流・定着】</p> <p>「県内大学新卒者の県内就職率」は46.6%でなく、空元気でよいので50%が望ましい。</p>	<p>県内大学新卒者の県内就職率については、学生優位の「売り手市場」を背景に、都市部との賃金格差や若者の都会志向など、複雑な要因により低下傾向にあるところです。</p> <p>本戦略では、このような傾向にあっても、現行戦略と同程度の伸び率を目標として設定したものです。</p>
9	<p>【2-③ 地方創生を担う人材の育成】</p> <p>「全国規模の理数・情報・政策提案等のコンテストへの県立高校生参加者数」について、全体の最上位計画との視点から、私立高校生を加えて、950人から1,500人にしてはどうか。</p>	<p>設置者が学校法人である各私立高校は、独自の建学の精神と教育方針のもとに特色ある教育を行っており、こうしたコンテストの周知などを通じて、高校生誰もが参加できる機会を整えてまいります。</p>
10	<p>【2-③ ■探求・STEAM教育の推進】</p>	

	「STEAM」について、平均的県民が理解できるよう説明が必要ではないか。	説明を追加し、STEAM教育（いわゆる文系・理系の枠を越えた学び）とします。
11	<p>【2-④ 情報発信力の強化】</p> <p>「県の働きかけによる首都圏テレビなどメディア露出の広告換算額」について、目標値が変わっていないが、現状維持でよいとしか読めない。</p>	過去3年間の（R3年度～R5年度）実績の平均値を踏まえ、現行戦略の目標値である26億円／年から上昇させた目標としています。
12	<p>【2-④ 情報発信力の強化】</p> <p>「県のSNSフォロワー等の数」について、発信力を強化するには、少なくとも300千人増やすべきだ。</p>	R5年度を基準に毎年20千人の増加を目指して目標値を設定したものであり、引き続き、情報発信力の強化を図ってまいります。
「基本目標3 持続的に発展できる経済力を確保する」関係		
13	DXの用語の定義や説明は、最初に行われるのが通例だ。	デジタル・トランスフォーメーションは「DX」に統一します。
14	<p>【3-② ■次代を担う力強い担い手の確保・育成】</p> <p>農業の担い手育成拠点は三徳園のみならず、岡山県農業大学校、一般財団法人中国四国酪農大学校もある。三徳園は農業経営・就農支援センターを有しているが、農作業体験や就農後の支援センターであり、新規就農者の育成には、岡山県農業大学校、中国四国酪農大学校も加えてほしい。</p> <p>また、農業次世代人材投資資金の免除条件に農業協同組合等での就職を認めてほしい。</p>	<p>新規就農者の確保・育成には、市町村や農業団体をはじめ、農業大学校や中国四国酪農大学校等も重要な拠点と認識しており、ご意見を踏まえ、「関係機関等と連携した」を追記します。なお、連携する関係機関については、個別計画である「おかやま農林水産プラン（仮称）」において、「農業関係高校や農業大学校、中国四国酪農大学校との連携」と具体的に記載することとしています。</p> <p>また、農業次世代人材投資資金は国の制度であり、県の判断による要件等の変更はできません。</p>

15	<p>【3-③ 多様な人材の活躍推進】</p> <p>「勤務間インターバル制度に取り組んでいる事業所の割合」について、国の動向を勘案すれば、2028年は100%だ。</p>	<p>お話の指標については、国における類似の目標値の伸び率の考え方を参考とし、県内の実績値を踏まえ、設定しているところです。</p>
<p>「基本目標4 地域の活力を維持する」関係</p>		
16	<p>【4-① ■生き活き拠点（小さな拠点）の形成促進】</p> <p>「平成の市町村合併」について、「78→27」くらいの説明が必要だ。</p>	<p>「平成の市町村合併前の旧市町村」という表記は、生き活き拠点（小さな拠点）を形成する範囲を例示したものです。</p>
17	<p>【4-③ ■防災施設整備や公共施設等の耐震化等の推進】</p> <p>「岡山県自身も災害に備えた備蓄をしている」という記載がないが、岡山桃太郎空港の倉庫で備蓄をしていることから記載してはどうか。</p>	<p>現在、市町村とともに南海トラフ地震の被害想定を基に、必要な備蓄を進めていますが、県備蓄は、「緊急物資等の備蓄・調達（南海トラフ地震想定）について」において、住民及び市町村の備蓄の補完と位置付けていることから、記載していません。</p>

2 岡山県人口ビジョン（令和7年3月改訂版）（素案）

（1） 「Ⅰ 岡山県の人口の現状と分析」関係

番号	ご意見等の概要	県の考え方
1	<p>【1 人口動向の分析】</p> <p>施策のターゲットやニーズ把握、市場分析など、施策を検討する上で重要な情報である世帯数の推移（推計）についてもグラフに落とし込むべきではないか。</p>	<p>ご意見のとおり、世帯数は重要な情報であると考えていますが、このグラフは人口推移をわかりやすくお示しするため、人口に特化したものとしています。引き続き、世帯数の推移にも着目しながら、より実効性のある施策に取り組んでまいります。</p>

（2） 「Ⅱ 人口の将来展望」関係

番号	ご意見等の概要	県の考え方
2	<p>【3 人口の将来展望】</p> <p>「国外移動を含む社会増減について令和10年以降均衡した状態が保たれる」は、県全体だが、岡山市や倉敷市と県北の市町村では人口の減少具合が大きく違うため、市町村別に人口の見通しを立ててほしい。</p>	<p>県内のすべての市町村において、地域の状況等を踏まえて、人口減少問題に焦点を当てた計画及び人口ビジョンを策定しているところです。県において、市町村別に推計を行うことは考えていませんが、市町村とともに人口減少問題に取り組んでまいります。</p>
3	<p>【3 人口の将来展望】</p> <p>「岡山県の人口の推移と長期的な見通しのグラフ」の凡例で、「日本の地域別将来推計人口」とあるが、県の将来推計人口のグラフであるのに、分かりにくい。単に「将来推計人口」とした方が良くはないか。</p>	<p>ご意見を踏まえ、「日本の地域別将来推計人口」を「現在の人口動態がそのまま続く場合」に修正します。</p>